

金毘羅社 円政寺

円政寺は、元々はこの地を治めていた大内氏のご本尊として 1254 年に山口に創建された。大内氏は後に毛利氏に追放された。1604 年に毛利氏が藩庁を萩に移した際、萩城の近くに円政寺を移築した。萩は毛利氏の下で賑やかな城下町に発展し、19 世紀半ばには、萩の名所を紹介する当時のガイドブックである八重萩名所図画に円政寺のことが記されている。

円政寺は真言宗の寺だが、境内には金毘羅尊が祀られている。金毘羅尊は船乗りや漁師の守護神である。明治時代（1868-1912）の神仏分離以前は、神域を共有する習慣は一般的なものであった。

金毘羅の社殿には、十二支の動物の彫刻がある。社殿の入り口の上にある巨大な天狗の仮面は、1838 年に作られたものだ。長州武士の高杉晋作（1839～1867）が幼少の頃に頻繁にここに連れてこられ、天狗の仮面への恐怖心を克服するための指導を受けたと言われている。高杉は 1868 年に徳川幕府を打倒した武士の一人である。社殿の隣には、1820 年に建てられた、金毘羅に乗った神馬の木像がある。高杉とその友人であり、同士でもある伊藤博文（1841～1909）が子供の頃にこの馬の上で遊んだと言われている。

2004 年、この寺は、倒幕を防ぐために戦った英雄たちを題材にした NHK 大河ドラマ「新選組！」の中でも取り上げられた。また、「名探偵コナン」の 2 話に渡るエピソードにも登場する。このエピソードでは、この神社の巨大な石灯籠の珍しいデザインから、大きな謎の答えが明らかになる。